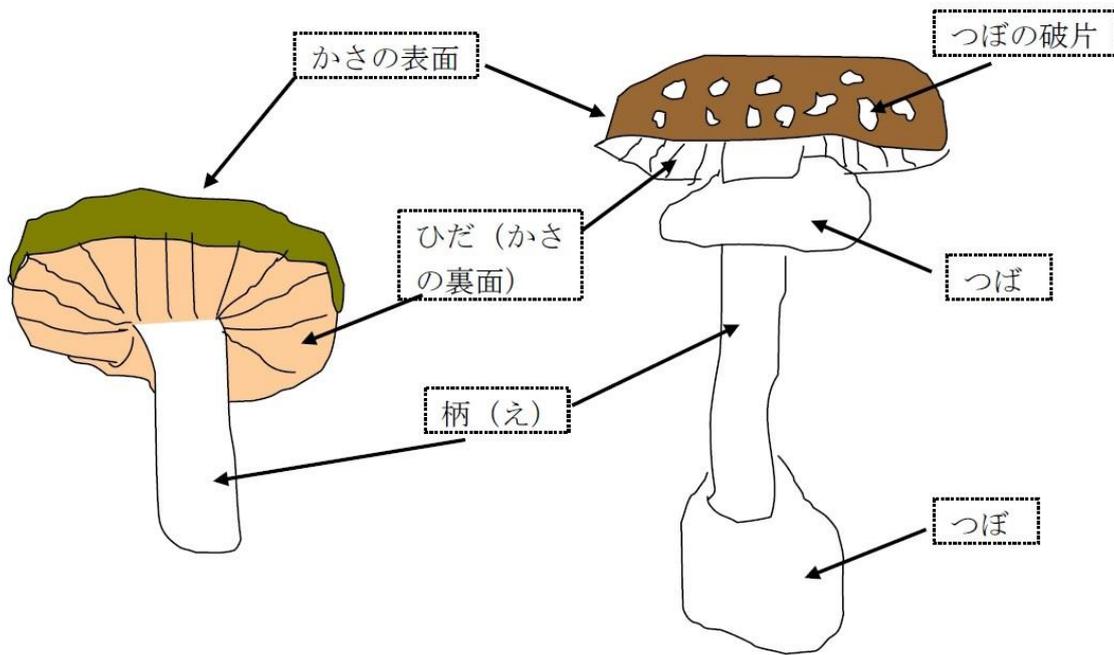


# 「毒きのこ」ってどんなもの？

## 1 きのこの種類

きのこは、図鑑によっては約1,000種類ほど掲載されているものもありますが、実際には、数千種類あるといわれていて、名前のわからないきのこが多数あります。

## 2 きのこの形態と各部の名称の一例



## 3 毒きのこによる食中毒防止のポイント

- ① 知らないきのこは採らない、絶対に食べない。
- ② 食べられるきのこの特徴をしっかりと覚える。
- ③ 「柄が縦に裂けるきのこは食べられる」等の誤った言い伝えや迷信を信じない。

#### 4 主な毒きのこ

クサウラベニタケ



クサウラベニタケの特徴

- ①かさの裏側（ひだ）は初め白色、のちピンク（肉）色
- ②柄は中空でもろい
- ③食後 30 分位から激しい嘔吐、下痢
- ④ウラベニホテイジメジとの鑑別は難しい

間違えやすい食用きのこ ウラベニホテイシメジ



カキシメジ



カキシメジの特徴

- ①かさの裏側（ひだ）は白色で、傷つけると茶褐色のシミができる
- ②食後 30 分位から激しい嘔吐、下痢
- ③チャナメツムタケ、マツタケモドキなどと間違える

間違えやすい食用きのこ チャナメツムタケ



### ツキヨタケ



ツキヨタケの特徴

- ①枯れたブナの木などに群生
- ②柄は、ひだのつけ根との境につば（エリマキ）様の隆起がある
- ③真ん中で裂くと柄の断面に黒いシミがある（無いものもある）
- ④ムキタケ、ヒラタケとの鑑別は難しい

### 間違えやすい食用きのこ ムキタケ



### ドクヤマドリ



かさの裏面は微小管孔  
（スポンジ様）

ドクヤマドリの特徴

- ①標高 1800～2000mの針葉樹林内に散在（県内では主に八ヶ岳山麓、浅間山周辺）
- ②かさは淡黄褐色ビロード状で、かさの裏は微小管孔で黄褐色、傷つくと弱く青変
- ③食後 4～5時間で不快感、下痢、嘔吐
- ④ヤマドリタケモドキなどと間違える

### ネズミシメジ



### 間違えやすい食用きのこ シモフリシメジ



#### ネズミシメジの特徴

- ①かさは初め円錐形で、生長しても中心部は突出したままである（とんがった感じ）
- ②かさの表面は灰白色で、中心部は黒色に近く、放射状の繊維紋をつける
- ③ひだは灰白色で、柄は白色
- ④シモフリシメジとの鑑別は難しい

#### ※その他注意が必要な主な毒きのこ

### テングタケ



#### テングタケの特徴

- ①かさは生長すると径4～25cm、まんじゅう形からやや平らに開く、表面は灰褐色から茶褐色で、白色のつぼの破片を多数散りばめ、周辺には放射状の溝線がある
- ②ひだは白色、柄は白色で根元がふくらみ、つぼの跡が輪状に残る、つぼは白色
- ③カラカサタケと間違えた事例がある

ニガクリタケ



間違えやすい食用きのこ クリタケ



ニガクリタケの特徴

- ①かさは径2～5 cm、まんじゅう形から平らに開く、硫黄色で中央はやや黄褐色
- ②ひだはオリーブ色のち紫褐色、柄はかさと同色
- ③猛毒、激しい嘔吐、下痢、けいれんなど、死亡事例あり
- ④クリタケと間違える

ドクツルタケ



ドクツルタケの特徴

- ①全体的に白色、かさは初め円錐形で生長すると扁平に開く、表面は白色
- ②ひだは白色、柄は白色で上部につばがあり、根元はふくらみ大きなつぼがある
- ③猛毒、食べて10～20 時間後に激しい腹痛、嘔吐、下痢、腎臓障害などが起こり、死亡事例あり

## カエнтаケ



### カエнтаケの特徴

- ①表面はオレンジ色から赤色、細長い円柱状または棒状で、土から手の指が出ているように群生または単生する
- ②中は白く、硬い
- ③猛毒、食べて30分から発熱、悪寒、嘔吐、下痢、腹痛、手足のしびれなどが起こり、2日後に消化器不全、小脳萎縮による運動障害など脳神経障害により、死亡事例あり